

## 5組 国語科学習指導案

日時 令和5年11月27日(月) 第5校時

対象 特別支援学級(5組)花グループ

第1学年 7名

場所 1階5組A教室

授業者 池本 志津子(T1)

学校生活支援員 松浦 良子(T2)

### 研究主題

自分の考えや思いを伝え合うことのできる児童の育成  
～国語科における伝え合う力を伸ばす学習を通して～

### 分科会の目指す児童像

～多様な考えに触れ、生活に生かすことのできる子～

#### 1 単元名「劇をしよう」

教材名「ぼんたのじどうはんばいき」

#### 2 単元の目標

気持ちを表す言葉に着目し、物語における登場人物の気持ちを想像し、自分の考えを伝えたり、表現したりすることができる。

#### 3 単元の評価規準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
○日常生活で使う気持ちを表す言葉や様子を表す言葉が分かる。 ○発表の方法が分かる。	○気持ちを表す言葉からイメージして表現することができる。 ○相手の意見を聞き、自分の考えの相違が分かる。 ○自分の考えを伝えることができる。	○劇を通して、物語に親しむことができる。 ○言葉でのやり取りを聞くことができる。 ○言葉で伝えようとすることができる。

#### 4 児童の実態

本学級は国語・算数の学習は習熟度別5段階のグループ編成での学習を行っている。花グループは全員が1年生である。元気が良く、人との関わりを好む児童が多い。また学習においても、進んで発言しようとする児童が多く見られる。ほとんどの児童が、「うれしい」「たのしい」「いやだ」といった自分の気持ちを言葉で伝えることができる。しかし、発言をすることに終始することがほとんどで、話を最後

まで聞くことや話の内容を聞き取るにおいては、弱さが見られる。そのため、日常生活において友達同士での簡単な関わりがもててはいるが、やりとりが必要な場面になると、表出できる語彙が少ないこともあり、言葉で伝える前に手が出てしまい、トラブルになることが多い。

読むことにおいては、平仮名50音を覚えていない児童が多く、一人で絵本を読み、内容を理解することは難しい。また、登場人物の気持ちの変化を理解したり、自分の考えを言葉で表現したりすることが難しい。絵を見て「悲しい」「楽しい」といった気持ちを読み取ることはできる段階にある。

書字においては、ほとんどの児童が平仮名を完全に覚えておらず、スムーズに書くことができない。視写したり、なぞって書いたりする段階である。

今後、児童には、生活の中でコミュニケーションに必要な語彙を増やすとともに、相手の言葉を受けて気持ちを伝える双方向のやりとりができる力を高めさせていきたいと考える。

## 5 単元観、学習指導要領の位置付け

児童は友達同士の関わりを求めているが、言葉で気持ちを伝えたり、相手の思いを受け止めたりすることは経験が少なく、また、不得手の児童が多い。そのため、話が一方通行になって相手に気持ちが伝わらなったり、手を出してしまってトラブルになってしまい、本意が伝わらなったりする場面が多く見られる。

本単元を通して、気持ちを表す語彙を増やすとともに、自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを考えたりさせたいと考えた。そこで劇遊びを通して人との関わり合いや伝え合う楽しさを経験させ、日常生活においても、他者を意識し、多様な意見に関心を向け、自分で考えた思いを伝えようとする態度、相手の言葉を最後まで聞こうとする態度を育みたい。

本学級は、特別支援学校の教育課程に準じた教育活動を行っているため、本単元では、特別支援学校学習指導要領の国語科の目標に基づき、児童の実態を踏まえ、国語科2段階の目標を前提とし、【思考力、判断力、表現力等】A聞くこと・話すことを中心とした単元計画を立てて指導を行う。

### 特別支援学校学習指導要領における国語科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で理解し表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉で伝え合うよさを感じるとともに、言語感覚を養い、国語を大切にその能力の向上を図る態度を養う。



#### ○2段階

- ア 日常生活に必要な身近な言葉を身に付けるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。
- イ 言葉が表す事柄を想起したり受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。
- ウ 言葉がもつよさを感じるとともに、読み聞かせに親しみ、言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようとする態度を養う。

今回取り上げる教材「ぼんたのじどうはんばいき」は、様々な登場人物が出てくるが、基本的には主人公のぼんたの気持ちを中心に話が進められている。広場に置かれた自動販売機を中心に、同じような展開が繰り返されるので、本学級の児童にも理解しやすい構成となっている。また基本的にぼんたと他の登場人物という2者のやりとりで構成されている点も場面を把握する上で分かりやすいと考えた。

本学級児童の発達段階を鑑みた時、場面を理解し、双方向のやりとりをする楽しさが味わえる良い教材と考え選定することにした。

また、教材の良さを生かし、児童が教材をより楽しく、より理解しやすくするための手立てとして、以下のような工夫を学習活動に取り入れた。

(1) 自動販売機の作成

ぼんたが考えた自動販売機がどのようなもので、どのように作られたのかを実体験として感じるために、児童が自動販売機に色付けしたり、張り紙を作ったりする活動を取り入れた。

(2) お面の表情作成

登場人物を理解しなりきりやすくさせるとともに、挿絵に描かれた登場人物の表情に着目させるために、登場人物の表情を自分たちで作成させた。

(3) 教科書の作成

絵本を読みやすくし、場面の展開や気持ちを表す言葉など注目させたい言葉を把握させやすくするために、教科書を作成した。

(4) 選択肢の導入

思いをもつことはできても、言葉にまとめて表現することは難しい。そこで、自分の思いに近い言葉や表情を選択肢から選ぶようにした。

6 単元計画（8時間扱い）

次	時	○めあて 主な学習活動	・指導上の留意点
第一次	第1時	<p>○登場人物と主人公のプロフィールを確認しよう</p> <p>①読み聞かせて物語の大体の内容を把握し、登場人物を確認する。</p> <p>②主人公のプロフィールを文章から見つけて発表する。</p> <p>○名前 ○住んでいるところ</p> <p>○得意なこと</p>	<p>・ワークシートで登場人物を選び、名前を書いて意識させるようにする。</p> <p>・希望を確認し、役を決める。</p> <p>・主人公のプロフィールを文章から読み取らせて書かせる。</p>
	第2時	<p>○気持ち言葉を見つけて発表しよう</p> <p>①気持ち言葉を出し合う。</p> <p>表情イラストに合う言葉を分類する。</p> <p>②教科書から気持ち言葉を探し、線を引く。</p>	<p>・気持ち言葉が出ない場合は、イラストカードを提示し、イメージさせる。</p> <p>・気持ち言葉の理解が難しい児童には、「かなしい」「いたい」等日常的に使う言葉に合う表情を選ばせる。</p>
第二次	第3時	<p>〈ライオンの場面〉</p> <p>○「うふふ、うまかったぞ。」のときのぼんたの気持ちを考えよう</p>	<p>・地の文は担任が読み、台詞は役担当児童が読む。音読時にお面を被り、役を意識させる。</p>

		<p>①音読をする。</p> <p>②電子黒板で場面の流れを確認する。</p> <p>③最後の台詞のときの気持ちを選択肢から選んで発表する。</p> <p>④役割担当の人は、役の気持ちを意識しながら演じる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選択クイズなどを取り入れて場面の流れの確認に興味を持たせる。</li> <li>・イラストを入れて視覚的に分かるようにする。</li> <li>・気持ちを考える際は、ワークシートを使って自分で考える時間を作る。</li> </ul>
	第4時	<p>〈きつねの場面〉</p> <p>○「<b>かたん、かたん</b>」と言ったときの<b>ぼんたの気持ち</b>を考えよう</p> <p>①音読をする。</p> <p>②電子黒板で場面の流れを確認する。</p> <p>③最後の台詞のときの気持ちを選択肢から選んで発表する。</p> <p>④役割担当の人は、役の気持ちを意識しながら演じる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちの理解が難しい児童には、選択肢の数を少なくしたりする。</li> <li>・電子黒板に表示し、視覚的に確認できるようにする。</li> <li>・印を付けた気持ち言葉や挿絵の表情に注目させる。</li> <li>・場面を意識した選択ができているかどうかを評価するため、あきらかに場面と違う気持ちを入れておくが、選択は1つでなくてよいことを伝える。</li> <li>・ぼんたを演じる時には、どんな気持ちを選択したか確認してから演じさせる。</li> <li>・相手、見ている人に伝わるように演じるとよいことを伝える。</li> </ul>
	第5時 (本時)	<p>〈さるの場面〉</p> <p>○「<b>さるくんのいたいはがはやくなおりますように・・・</b>」と言ったときの<b>ぼんたの気持ち</b>を考えよう</p> <p>①音読をする。</p> <p>②電子黒板で場面の流れを確認する。</p> <p>③最後の台詞のときの気持ちを選択肢から選んで発表する。</p> <p>④役割担当の人は、役の気持ちを意識しながら演じる。</p>	
	第6時	<p>〈たぬきのおんなのこの場面〉</p> <p>○「<b>ぼくも・・・</b>」と言ったときの<b>ぼんたの気持ち</b>を考えよう</p> <p>①音読をする。</p> <p>②電子黒板で場面の流れを確認する。</p> <p>③最後の台詞のときの気持ちを選択肢から選んで発表する。</p> <p>④役割担当の人は、役の気持ちを意識しながら演じる。</p>	
第三次	第7時	<p>ぼんたってどんな人だと思うか、発表し、ワークシートのプロフィールに書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面でのぼんたの気持ちを振り返らせぼんたの人物像を選択肢の中から選ばせ、記入する。</li> </ul>

第四次	第8時	劇遊びをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面ごとに劇をする。</li> <li>・他学年にも見てもらい、他者に伝える気持ちを持たせる。</li> <li>・演じ終わった後、感想をもらう。</li> <li>・ビデオにとって振り返りができるようにする。</li> <li>・あらかじめ好きな場面の台詞を練習しておくようにする。</li> </ul>
-----	-----	---------	---

7 個別の実態と単元の目標（別紙参照）

8 本時（5／8時間）

（1）ねらい

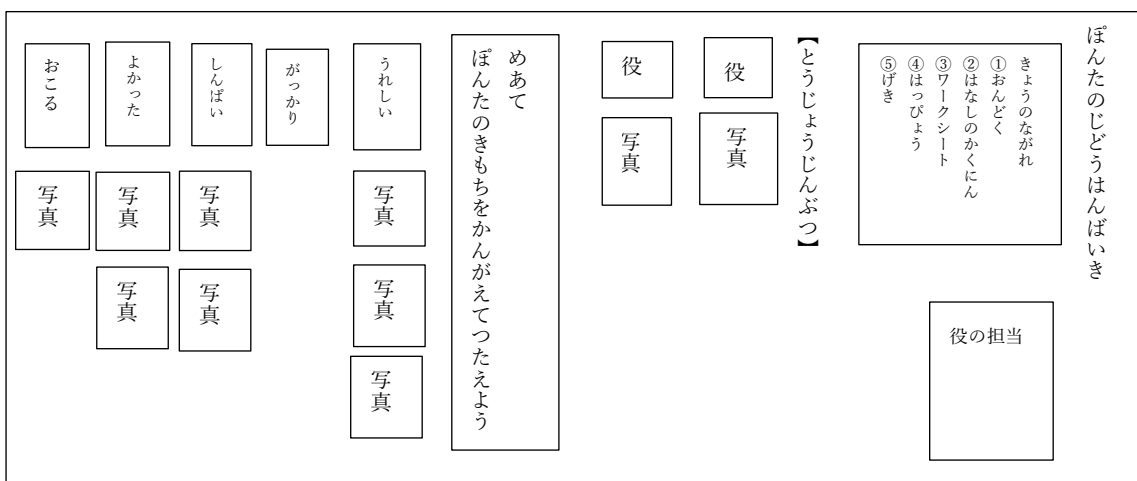
- ・主人公の気持ちを想像し、言葉で表現することができる。
- ・相手の考えを聞き、自分の考えと同じところ、違うところ分かる。






（2）展開




	○具体的な学習活動	◇指導上の留意点 ■学習活動に即した具体的な評価規準（評価方法）
導入 5分	1 本時の学習の流れを確認する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">             めあて               ぽんたのきもちをかんがえてつたえよう           </div>	◇視覚的に分かるように提示する。
	2 前時を振り返りながら登場人物を確認する。 今回の場面・ぽんた・さる	◇登場人物のイラストを表示し、役担当児童の写真カードを貼って確認できるようにする。 ◇役を意識できるように、お面をかぶる。
展開 30分	3 音読をする。  4 スライドで場面の内容を確認する。  5 ワークシートに取り組む。 「さるくんのいたいはが、はやくなおりますように・・・。」のときのぽんたの気持ちを考え、ワークシートの選択肢から選んで○を付ける。	◇役担当児童が音読する。地の文は担任が読み、台詞を役の児童に読ませ、相互の関わりを意識できるようにする。 ◇課題に集中しやすくするため、全員でクイズ形式の問題に答えながら内容を確認できるようにする。 ◇場面にあったぽんたの気持ちに近いと思うものをいくつ選んでもよいことを伝える。 ◇気持ちを選ぶことが難しい児童には、挿絵を意識させ、わかりやすい気持ちの選択肢を2～3つ絞り、選択しやすくする。

	<p>《選択肢》</p> <p>①うれしい ②がっかり ③しんぱい ④よかった ⑤おこる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">       選択肢2つの場合        ①うれしい        ②おこる     </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">       選択肢3つの場合        ①うれしい        ②おこる        ③しんぱい     </div> <p>6 自分が選んだ気持ちを発表する。 【発表の方法】 「聞いてください。 私は○ぼんの～だと思いました。」 (私は○ぼんの～と○ぼんの～だと思いました。)</p>	<p>◇黒板に気持ちカードと児童の写真を貼り、誰が発言したか分かるようにする。</p> <p>◇一人ずつ発表させる。</p> <p>◇発表の方法の話型に沿って、発表できるようにする。</p> <p>■気持ちを表す言葉が分かり、選択することができたか。(ワークシート)</p> <p>■選択したものを伝えることができたか。(発言)</p> <p>◇友達を選択や理由を聞いて意見を変更してもよいことを伝える。</p> <p>◇みんなの意見を確認していろいろな考えがあることを確認する。</p> <p>◇選んだ理由が言える児童がいれば発表させる。</p> <p>■友達の意見を聞き、自分の意見と比べることができたか。(発言)</p>
<p>まとめ 10分</p>	<p>7 役の児童が自分の選んだ気持ちを意識して演じる。</p> <p>8 振り返りを記入する。</p>	<p>◇ぼんたを演じる前に、選んだぼんたの気持ちを確認し、意識して演じるように伝える。</p> <p>◇劇をするときにはさるの気持ちも考えて演じるように伝える。</p> <p>◇劇をするときは、相手を意識して台詞を言うときよいことを伝える。</p> <p>■見ている友達に伝わるように演じることができたか。(観察)</p> <p>■友達の劇を見ることができたか。(観察)</p> <p>■振り返りを記入することができたか。(ワークシート)</p>

9 板書計画



⑤	④	③	②	①
しあわせ	よかった	しんぱい	かなしい	うれしい
				
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

☆きょうりよくする  <input type="checkbox"/>	☆きもちをつたえる  <input type="checkbox"/>	☆はなしをきく  <input type="checkbox"/>	《ふりかえり》○△×
--	--	--	------------

③「さるくんのいたいはがはやくなおりますように...。」といっ  
たときのぼんたのきもちはどうでしょう。  
じぶんのかんがえに○をつけましょう。



②きょうのとうじょうじんぶつはだれでしょうか。

①おんどくをしましょう。ききましょう。

ねん	くみ
----	----

ぼんたのじどうはんばいき④